

第7回日本気象学会ジュニアセッション開催報告

教育と普及委員会

ジュニアセッションは、次世代を担う高校・中学生に発表の場を提供する、という社会貢献を目的として2015年度春季大会から毎年開催されている。大気や気象に対する若い人たちの興味や探究心が高まることで、より豊かな社会の招来に繋がることを期待している。

2021年は春季大会がすべてオンライン開催となったことから、第7回日本気象学会ジュニアセッション（以下、ジュニアセッション2021）も、5月16日（日）～21日（金）にオンラインで開催した。発表形式は、ポスターによる発表に代わるものとしてオンデマンド講演、プレゼンテーションに代わるものとしてzoomによる口頭発表または発表動画のオンデマンドサイトへの掲載とした。

今回は北海道より熊本県までの21校から32件の発表があり、60名の生徒に発表認定証を発行した。発表テーマは雲や気温など身近な気象に関するテーマだけでなく、地球流体力学や自作観測装置など幅広く、さらに、プラスチック問題・景観・音楽など、気象学の周辺分野への拡がりを感じさせるテーマが多く見られた。いずれもよくまとめられていて、中高生らしい発表であった。

オンデマンド講演ではコメント機能を使って質疑応答が行われ、一般会員からは専門的な視点からのコメントが多く寄せられた。中高生の間でも類似の研究テーマを発表している学校間をはじめとして情報交換が活発に行われた。チャットに慣れている中高生にとって、オンデマンド講演のコメント機能はなじみやすかったかもしれない。オンデマンドサイトに掲載された発表動画は、いずれも画像・音声とも明瞭で、分かりやすいものだった。オンデマンド形式の発表に参加するのが初めての学校が多く、アップロード作業に苦勞するケースが見られた一方、ウェブサイト形式（応用タイプ）で掲載した発表もあった。オンライン環境が学校によってまちまちであることに配慮が必要であると思われる。

zoomによる口頭発表17件は、19日（水）16：30～18：45に2つのセッションで行われた（第1図）。接続トラブルもほとんど無く、概ね時間通りに発表・進行

することができた。ここでも多くの一般会員が参加してくださり、多くのコメントをいただいた。開催時間が午後の遅い時間となり、学校の下校時刻に間に合わなかったケースもあったことは、今後の検討課題とした。

ジュニアセッション2021は2020年に続いて2回目のオンライン開催となった。前回はポスター資料をweb掲載し、閲覧者にGoogle Formでコメントを入力してもらって、それを発表校ごとにまとめて送付したが、双方向の質疑応答ができなかった。今回は大会オンデマンド講演の仕組みを利用したことにより、コメント機能によって双方向の質疑応答が可能になった点は、大きな改善だと言える。一方、アップロードに困難を感じた参加者が多かった（やや難しいを含めると90%超）。今後は、適切なタイミングでの情報提供と、フォロー体制の強化が必要である。

アンケートの結果では、発表へのコメントが役に立ったとする回答が大多数を占め、満足度に繋がっている様子がうかがえる。他校の発表を視聴したとする回答が約90%で、従来の対面形式では他校の発表が聞けなかったとするコメントが複数寄せられていた状況の改善に、オンライン開催が一助となっていると思われる。また、オンライン開催では日程や予算による参



第1図 zoomによる口頭発表での記念撮影。

加の制約が軽減される一方で、コミュニケーションの取りづらさは否定できない。大会においても同様の議論がされており、その動向にも注視しながら、より良い開催方法を模索していきたい。

ジュニアセッション2021の開催にあたって、文部科学省、公益社団法人全国高等学校文化連盟、日本気象予報士会から後援をいただいた。また、講演企画委員

会と大会実行委員会より全面的なご協力を賜った。参加してくださった学会員の皆様と合わせて、ここに深くお礼を申し上げる。ジュニアセッション2021の開催状況は気象学会ホームページにも掲載している (https://www.metsoc.jp/about/educational_activities/junior_session/junior_session_2021/photos)。